3　人間関係

小学校高学年から中学校にかけて，児童生徒は，心身ともに発達が著しく，他の人との結び付きを強く求めるようになる。反面，自我の確立を求め，自己の生き方についての関心が高くなり，人生をよりよく生きたいという内からの願いが強くなってくる。そして，この時期の児童生徒の交遊関係は，広がりをもち，それまで，大きな影響をもっていた親や教師の存在は，相対的に小さくなる。学級や学校のさまざまな集まりを通じてできた仲間集団が，この時期の児童生徒にとって大きな影響を与えるようになる。親や教師に対しては，反発したり，批判的となっても，仲間集団の言葉や評価を意識した行動をとることが多くなる場合がある。

【 陥りやすい問題行動等 】

○　いじめ
　・冷やかしやからかい
　・言葉での脅し
　・暴力
　・仲間はずれ
　・持ち物隠し　　等
○　いじめ等の問題行動に対する傍観者的態度や無関心
○　性への強い関心と反発
○　家出　　など

【不登校状態となった直接のきっかけ】

区　　分		小学校	中学校
学校生活に起因	友人関係をめぐる問題	10.3	21.1
	教師との関係をめぐる問題	2.1	1.4
	その他	6.6	20.0
家庭生活に起因	親子関係をめぐる問題	16.3	8.2
	その他	12.7	8.8
本人の問題に起因	病気など	36.5	35.3
その他		15.6	8.2

「生徒指導上の諸問題の現状について」文部科学省／平成 14 年

その背景や要因として，社会全体の価値観の混迷やモラルの低下など学校外の要因，そして「児童生徒が主体的に考え判断し行動する価値観が形成されているか，また，そのことが十分に機能しているか，教師の指導力は・・・」など学校内の要因に分けることができる。

【 「道徳の時間」の指導の基本方針にかかわって 】

（1）道徳の時間の特質を理解する
- ねらいとのかかわりにおいて自己を見つめる
- 道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚する
- 人間としての生き方についての自覚を深める
- 主体的に道徳的実践力を身に付けていく

（2）信頼関係や温かい人間関係を促す（共感的理解）
- 学級経営と深くかかわることができるようにする

（3）児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する（自発的な意欲）
- 児童生徒自らが時と場に応じて望ましい道徳的行動がとれるような内面的資質を高める

（4）児童生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する（自己決定の場，共感的人間理解）
- 児童生徒一人一人の感じ方や考え方を大切にする
- 四つの視点（自分自身，他の人，自然や崇高なもの，集団や社会）を通して児童生徒一人一人が自分の問題として受け止められるようにする

（5）道徳の時間が道徳的価値の自覚を深めるかなめとなるよう工夫する
（自己決定の場，自発的な意欲，共感的理解）
- 他の教育活動で行う体験活動と密接に関連させる
- 校長や教頭の参加，他の教師との協力的指導，保護者や地域の人々の参加や協力を得る

（6）指導に当たっての基本的姿勢について理解を深める（共感的理解）
- 児童生徒と共に考え，悩み，感動を共有していくという姿勢で授業に臨む

生徒指導の三機能（坂本昇一）
- 自己決定の場を与える（判断力）
- 自己存在感を与える（自発的な意欲）
- 人間的ふれあいを基盤とする（共感的理解）

思春期にある小学校の高学年や中学校では，児童生徒の悩みや心の揺れ，学級や学校生活における具体的事柄や葛藤などの課題等を道徳の時間等で積極的に取り上げ，人間の心や生き方，在り方等について話し合い，自己や他者との関係を深く見つめられるよう指導することが大切である。